

## 2003年度九州支部発表会の報告

2004年3月8日(月)に鹿児島市の鹿児島地方気象台で標記発表会を開催した。プログラムは次のとおりで、例年より多い21題の発表があり、地元桜島に関連する調査や地球規模の現象を対象とした解析や数値シミュレーション等の多彩な内容であった。特に、最後のセッションでは昨年7月の鹿児島県菱刈町付近での豪雨に関する発表をまとめ、最後に九州大学大学院理学研究院守田 治助教授から「2003年梅雨期南部九州の豪雨について」と題して特別講演を行っていただいた。今回の発表会には高校生からも発表があり、大学の学部学生・院生、気象台の職員やすでに退職されている会員まで非常に幅の広い世代から参加があり、参加者は51名に及んだ。支部発表会は広い分野の発表を聞くとともに、異なる分野の会員同士の親交を深める場であることから、来年度もより多くの会員による発表をお願いしたい。

### 2003年度九州支部発表会プログラム

#### セッション I

1. 酸性雨自動測定装置の開発と桜島火山地域における酸性雨観測  
久永哲也・西田拓史・新保ちひろ・樋之口仁  
(鹿児島県立松陽高等学校)
2. 三宅島上空風の流跡線解析と火山ガス移流  
浜田智志(鹿児島大学・教), 飯野直子(鹿児島大学・工), 木下紀正(鹿児島大学・教)
3. 桜島噴煙の動態とビデオ映像のデジタルデータベース化  
山崎乃里子, 岩田志乃, 木下紀正(鹿児島大学・教)
4. 硫黄岳噴煙の自動観測と気象条件の解析  
山本昌史, 富山美智隆, 木下紀正, 金柿主税(鹿児島大学・教), 町田晶一(日鉄鉦コンサルタント)

#### セッション II

5. オゾンホールの変動について  
北村美沙子, 廣岡俊彦(九州大学・理)
6. 太陽活動度と成層圏温度との関連  
高野浦亮子, 三好勉信(九州大学・理)
7. ジェットの変動によるカオスの混合  
永野宏樹(九州大学・総理工)  
伊賀啓太(九州大学・応力研)

8. 「純粋な」低周波変動の振舞いと高周波変動との相互作用

松本英明, 伊藤久徳(九州大学院・理)

9. 対流圏・成層圏の卓越モード間におけるつながり  
原田憲一, 伊藤久徳(九州大学院・理)
10. 大気加熱強制による金星高速東西流の再現実験  
城戸敦善(九州大学・総理工)  
和方吉信(九州大学・応力研)

#### セッション III

11. 降ひょうの追跡調査  
蓑田啓一郎(元八代市立第一中学校教諭)
12. ダム開発に伴う周辺地域の NDVI の変化特性  
早川誠而, 北条直人(山口大学・農)
13. 長崎県地方における2003年春の黄砂現象の解析  
荒生公雄, 石坂丞二, 坂中裕美, 宮崎正志(長崎大学), 杉本伸夫, 松井一郎, 清水 厚, 森 育子, 西川雅高(国立環境研), 青木一真(富山大学), 内山明博, 山崎明宏, 戸川裕樹, 浅野準一(気象研)
14. 海岸における海塩粒子サイズ分布の観測と解析(2)

野中善政(宮崎大学・教育文化)

大河内康正(八代高専), 川崎拓哉(宮崎大学院)

#### セッション IV

15. 宮崎県特有の現象である「下層東よりの風」における3つの豪雨パターン  
用具敏郎(宮崎地方気象台)
16. 冬季日本海上に現れる帯状収束雲の形成について  
池田倫子(九州大学・総理工)  
伊賀啓太(九州大学・応力研)
17. 冬における台風発生の数値シミュレーション  
池田泰論, 伊藤久徳(九州大学院・理)
18. 九州地方における夏季積乱雲の発生について  
渡辺啓倫, 川野哲也(九州大学院・理)
19. 2002年10月6日に加世田で発生した竜巻の数値シミュレーション

下瀬健一, 川野哲也(九州大学・理)

#### セッション V

20. 2003年7月20日薩摩地方北部豪雨のメソスケール解析  
高橋隆三, 真島大雄(鹿児島地方気象台)

21. 平成15年7月20日の伊佐郡菱刈町付近を中心とした大雨の数値実験

藤 貴志 (鹿児島地方気象台)

特別講演

2003年梅雨期南部九州の豪雨について

九州大学大学院理学研究院 守田 治助教授



## 日産科学振興財団「理科・環境教育助成」を大幅に拡充し募集を開始

日産科学振興財団(理事長:カルロス・ゴーン)は今年度より助成内容を「教育」と「環境」にフォーカスし、その一環として「理科・環境教育助成」を大幅に拡充し募集することとなりました。ここでは「理科・環境教育助成」プログラムのみ記載しますが、学術研究・教育助成の全体内容及び申請方法についてはホームページをご参照下さい。

### ■理科・環境教育助成

将来を担う世代の科学と環境問題に関する興味と関心を高め、理解を促進することを目的として「理科・環境教育」に関する新しい試みに対する助成を行います。

応募書類は財団ホームページ(文末参照)から記入可能な申請書式をダウンロードしてご利用下さい。また詳細は、ホームページを参照するか事務局までお問い合わせ下さい。

### ■応募要件と審査

(1) 小・中・高等学校の教員、大学・研究機関等の研究者、企業・NPO・博物館関係者等が実施する主として高校生以下の生徒に科学・技術・環境問題・モノづくり・自動車等に興味を持ってもらうことを目的とした下記に例示するような活動を対象とします。

- ① IT 技術を活用した教育方法の開発と実施
- ② 気象、自動車など身近な素材を活用した教材および教育方法の開発と実施
- ③ 博物館、動植物館、水族館等の公共施設と連携した教育方法の開発と実施

- ④ 科学研究者、技術者が教える教育方法の開発
- ⑤ イベントの開発・考案と実施
- ⑥ その他上記例示以外の新しい試みの考案と実施

- (2) 活動には上記目的に適用何らかの実践活動(例えば出張授業等)を最低限1回は含めること。
- (3) 助成期間は原則として平成16年11月～平成17年10月までとし、この間に最低1回は研究授業等の実践活動を行うこと。

ただし今回応募・受領された助成者の中から特に意義深い活動と認められる若干数に限り再応募、再審査により、活動の普及促進のための期間の延長と助成金の追加を認めます。

- (4) 助成金額：1件あたり40万円程度
- (5) 採択予定：60件程度
- (6) 応募方法と締切：6月1日より受付開始。

7月30日締切

電子メール応募と郵送のセット応募(FAX 応募は不可)財団ホームページに従って応募下さい。

### ■財団法人日産科学振興財団

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9

Tel : 03-3543-5597, Fax : 03-3543-5598

E-mail : nsf@nissan-zaidan.or.jp

URL : <http://www.nissan-zaidan.or.jp>

\* 万一ホームページが開けない場合は、Yahoo または Google などで日産科学振興財団と検索して開いて下さい。